

平成29年度の経営環境と業績

平成29年度のが国経済は、世界経済の持ち直しを背景に輸出の増加や企業設備投資の拡大等により改善基調が続きましたが、実質賃金の伸びは鈍く、物価上昇も政府の目標には遠い水準で推移するなか、日銀による金融緩和政策は年度を通じて継続されました。

こうしたなか、国内株式市場は、年度前半は好調な企業決算等の影響により堅調に推移し、その後も世界的な景気拡大に伴う、企業業績への期待から上昇基調で推移しましたが、年度末にかけては米株式相場の急落が波及し、反落しました。

また、国内長期金利は、年度前半は、ECBにおける金融政策正常化観測の高まりを背景に上昇する場面もありましたが、期末では現行の金融緩和政策の長期化が意識され、前年度末比で低下しました。

為替相場は、対ドル・対ユーロとも年度前半は円安基調で推移しましたが、年度後半は世界的な株安を背景にリスク回避姿勢が強まり、円高基調で推移しました。

JAバンクを取り巻く環境は、少子高齢化の進行、利用者による金融機関の選別志向の高まり等を背景に、他金融機関との競争が厳しさを増しています。

このような経営環境のなか、当会は中期経営計画の中間年度として、3つの基本戦略と8つの重点実施事項のもと、会員JAとの一体的事業運営態勢を拡充し、有価証券等の効率的な運用に努めた結果、160億円の当期剰余金を計上することができました。

最近5年間の主要な経営指標

(単位：百万円)

区 分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
経常収益	48,763	49,170	51,341	51,883	55,207
業務純益	18,597	17,246	17,948	14,930	16,236
経常利益	18,760	16,620	17,220	12,241	19,724
当期剰余金	14,190	13,542	13,041	9,949	16,082
貯金等	3,855,667	4,056,032	4,189,337	4,370,148	4,498,445
預け金	2,668,029	2,961,527	2,940,992	2,842,599	2,917,638
貸出金	308,307	293,218	313,353	389,790	448,963
有価証券	1,259,807	1,222,116	1,354,304	1,466,857	1,497,167
出資金	95,595	102,845	110,167	189,588	194,885
(出資口数)	9,559,571口	10,284,571口	11,016,761口	18,958,861口	19,488,561口
純資産額	321,074	349,473	352,970	419,557	418,520
総資産額	4,443,307	4,681,272	4,822,773	4,978,382	5,193,465
剰余金配当金額	6,318	7,221	7,562	6,963	7,152
普通出資配当の額	525	525	525	525	525
後配出資配当の額	1,614	1,758	1,904	1,748	1,809
事業分量配当の額	4,179	4,938	5,133	4,689	4,818
職員数	174人	185人	187人	191人	194人
自己資本比率(単体)	32.59%	29.35%	18.85%	18.26%	17.14%
信託報酬	13千円	14千円	13千円	11千円	10千円
信託勘定貸出金残高	-	-	-	-	-
信託勘定有価証券残高	-	-	-	-	-
信託財産額	121,210千円	114,818千円	108,426千円	218,033千円	237,638千円

注：①貯金等は譲渡性貯金を含めて記載しています。

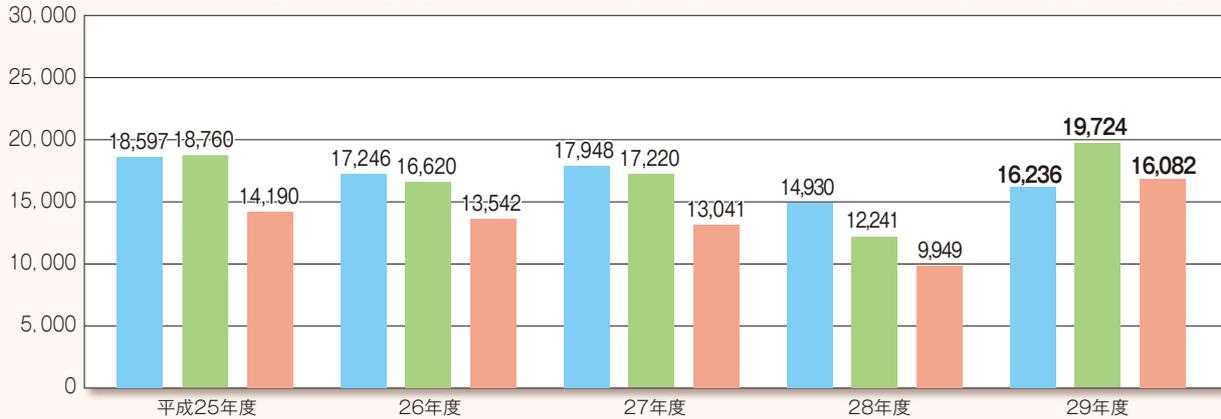
②職員数は常勤嘱託を除いた人数となっています。

③「単体自己資本比率」は、「農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準」(平成18年金融庁・農林水産省告示第2号)に基づき算出しております。

■利益の推移

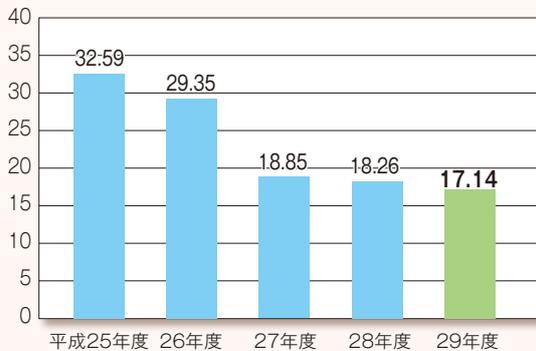
(単位:百万円)

業務純益 **162億36百万円** 経常利益 **197億24百万円** 当期剰余金 **160億82百万円**



■自己資本比率(単体)の推移

(単位:%)

17.14%

■貯金等の推移

(単位:億円)

4兆4,984億円

■貸出金の推移

(単位:億円)

4,489億円

■有価証券の推移

(単位:億円)

1兆4,971億円

収支状況

低金利による厳しい運用環境ではありましたが、運用の効率化・多様化に努めたこと、および貸倒引当金戻入益の発生等により、経常収益は552億円と前年比で増収となりました。

これに伴い、業務純益は162億円、経常利益は197億円、当期剰余金は160億円と前年度から増益となりました。

自己資本比率

後配出資金の受入等により自己資本の額が増加したものの、金銭の信託や劣後債を中心とした社債の購入に伴うリスク・アセット等の増加により、自己資本比率は、前期比1.12ポイント低下し、17.14%となりましたが、JAバンク基本方針で定める8%基準(国内基準は4%)を大きく上回る水準を確保しています。

貯金等

貯金等は、会員JAからの受け入れが順調だったこと等により、期中1,282億円、2.9%増加し、期末残高は4兆4,984億円となりました。

貸出金

貸出金は、他行との金利競争の影響等があったものの、既往取引先との取引深耕や新規取引先の開拓、シンジケートローンへの参加、並びに農業関連資金に積極的に対応した結果、期中591億円、15.1%増加し、期末残高は4,489億円となりました。

有価証券

有価証券は、保有債券の効率的な運用のために残存期間の短い債券等を一部売却したものの、将来の安定収益確保のため、市況を見極めつつ債券購入を行った結果、期中303億円、2%増加し、期末残高は1兆4,971億円となりました。

業績

経営

業務

組織

ファ
イル

索引